2026年度　SRM学会･全国大会

無差別殺傷事件への危機対応

―附属池田小学校児童殺傷事件の教訓―

松下義行

ー報告の趣旨・目的ー

事件発生から25年経過し、忘れつつある**教訓**を伝え、活かしたい。

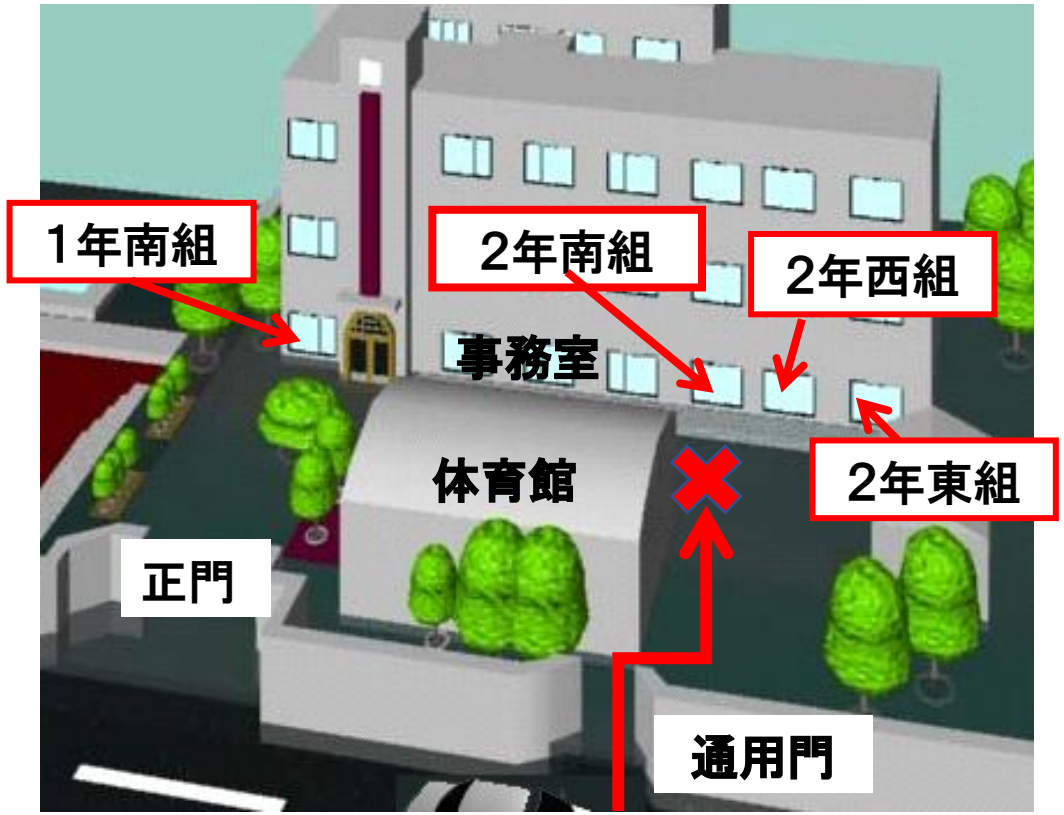
1. 同様事件が起きるリスクの認識
2. 兆候の感知と未然防止対応
3. 発生現場での被害最小化対応
4. 救命救護等の事後対応

★8人の“無念の命”の**教訓**を絶対に風化させてはならない。



＜被害者の既報道写真＞

―「附属池田小学校事件」の概要―



＜犯人の侵入経路と教員と出会った場所＞

▸2001年6月8日(金)午前10時過ぎ頃、
男(当時37歳)が、児童多数殺害目的で
大阪教育大学附属池田小学校に侵入し、
2年南組、2年西組、2年東組、1年南組で
所携の出刃包丁で、児童8人を刺し殺し、
児童13人と教員2人に重軽傷を負わせた。

▸男は男性教員2人に取り押さえられた。

＊犯人の刑事責任能力が問題であったが、
2003. 8. 28に死刑判決、翌年執行。

―何故こんな事件を起こしたのか？―

＜原因・動機＞

＊両親からの虐待、兄の自殺等の影響か、「性格偏奇」になり度々暴力的事件

＊定職なく借金が膨らみ、家賃も払えず生活破綻状態に

＊別れた元妻との復縁も叶わず、頼れる人もなく、悲観して自殺を図ったが、失敗

＊自殺より人を多数殺して死刑になることを選択した

＜被害者選定＞

＊ダンプカーで道頓堀通りに突っ込むことを考えたが、ダンプカーが盗めず断念

＊学校なら、容易に多数を殺せると思いついた

＊“恵まれた子”が通う名門の「附属池田小学校」をターゲットにした

教訓1；自暴自棄による同様事件が**起きるリスク**は常にある。

ー兆候(予兆・前兆)の感知と未然防止対応ー

【予兆】

▶1999年12月、京都の小学校校内に侵入した男(21)に児童が刺殺された事件が発生、文科省から警戒強化の緊急通報あり～不徹底

▶事件直前の5月18日(土)、犯人居住付近の住民が、池田警察署に車5台のタイヤ損壊の被害届と対応要望～事件後当該犯人の犯行と判明～立件・起訴

【前兆】

▶校舎に近づく不審な男を、男性教員が現認したが、リスク意識がなく、対応しなかった

～リスク意識があれば、「兆候・危険性」を感知でき、未然防止できる

教訓2；大きな事件・事故の前には**予兆・前兆**がある。早い感知と対応で防げる。

～ハインリッヒの法則

―発生現場での被害最小化対応―

⇒犯行を制止し児童を逃がす

・犯人の注意引き付け、椅子等で攻撃の防御、制止

・大声で呼びかけ逃がす、動けない子は名前を呼んで

＊絶対に犯人と児童を置いて現場を離れない

⇒周囲に早く知らせ応援を呼ぶ

児童に指示し、周囲に知らせ、他の先生を呼んでこさせる

＊110番は他の教職員が

⇒複数人で力を合わせて制圧する

単独、素手では危険

★刃物への対処



“恐怖心”の克服は？



～注意点

教訓3；刃物への対処は、**“実践的想定訓練”**なしにはできない。

ー救命救護等の事後対応ー

⇒迅速な応急手当

～傷口の圧迫止血等、体で覚えていないと直ぐにできない

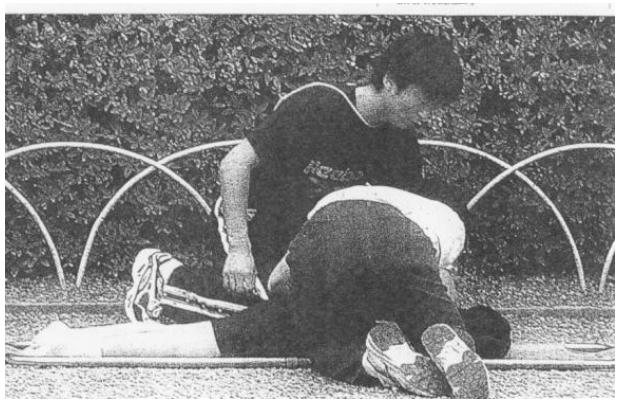
⇒救急車の要請と緊急搬送、付き添い

～学校等では、同時多数の緊急搬送の「迅速な決断」が必要

⇒心的障害への早期・継続的取組み

～凶行を目撃した児童等のPTSDへの専門的対応が必要

教訓4；危機対応は平素の“**備え**”と“**決断力**”



＜事件当日の夕刊写真＞



＜事件当日のTV報道映像＞

ーまとめ；対策ー

▷教員には、児童生徒を“守る責任”を果たせる**「ソフト面の備え」**が必須
- 「安全リスク」への意識醸成
- 実践的な防犯研修・訓練の実施
- 救命救護対処の体得

▷問題の根源への対策も必要
- 児童虐待の約6割を占める「心理的虐待」への関心と対策
- 生活破綻からの自殺防止のセーフティネットの充実

ご清聴有難うございました